OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 〔資料紹介〕 1908年の在神戸アメリカ領事報告 |
| Author(s) | 藤森, 衣子 |
| Citation | 待兼山論叢. 文化動態論篇. 2011, 45, p. 37-65 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/25125 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〔資料紹介〕

# 1908年の在神戸アメリカ領事報告

藤　森　衣　子

**キーワード**：アメリカ領事報告，アメリカ国立公文書館，
Special Consular Report，商務労働省，John H. Snodgrass

2010 年 9 月 2 日～ 9 月 13 日、大阪大学 OVC プログラム「横断的研究視察」に参加し、幕末以降の神戸の歴史やその発展を、アメリカ側の資料より検証することを目的として、ワシントン D.C. にあるアメリカ議会図書館（Library of Congress）とアメリカ国立公文書館（National Archives and Records Administration = NARA）で資料調査を行った。

議会図書館では、横浜関係の原資料の収蔵は確認できたが、目指す神戸関係資料が少なかったため、国立公文書館が収蔵する神戸アメリカ領事館の「領事報告」を閲覧した。

アメリカ国立公文書館は、1934 年に設立され、「独立宣言書」「合衆国憲法」「権利章典」をはじめとする、アメリカの建国から現在に至る、膨大な文書・映像フィルム・ビデオテープ・電子ファイル・図面・写真・モノ資料が保管されている。ワシントン D.C. にある国立公文書館の本館“Archives Ⅰ”が手狭になり、メリーランド州カレッジ・パークに新館“Archives Ⅱ”が建設されたとき、本館と新館で資料の住み分けが行われた。“Archives Ⅰ”では、家系調査関係や連邦議会関係資料が収蔵され、“Archives Ⅱ”では第二次世界大戦や日米外交関係資料および写真や映像などが集約されている。

本稿で紹介する“Consulate Special Report on Industrial Conditions

12/1907”[1] は、“Department of State. U.S. Consulate, Kobe, Japan. (1867-1961)”[2] と題する文書の一部であるため、“Archives Ⅱ” に保存されている。

NARA の資料には、1 から 500 番余りまでの番号で割り当てられた「記録群＝レコード･グループ RG」番号があり、個々の記録群は階層構造になっていて、その下には「シリーズ」「フォルダー」「アイテム」と続く。今回の資料は、下記のような分類方法となっている。

RG84：RG84 は、国務省在外公館記録群（Records of the Foreign Service Posts of the Department of State）の文書であり、世界中に展開するアメリカ大使館や領事館で作成された記録群である。

UD472：UD472 は、UD がシリーズ・タイプ（他に A1、WW、NM-3 などがある）で、472 がシリーズに付けられた番号で “Entry Number” と呼ばれる。シリーズ名は、神戸アメリカ領事館文書、Department of State. U.S. Consulate, Kobe, Japan. (1867-1961) である。SECCLASS（公開・非公開の別）では、公開となっている。

また、ARC（Archival Research Catalog）ID（ARC 登録番号）は、1292223、CONTAINER（収納箱番号）は 280 である。

さて、「領事報告」とは、本国政府へ送られた現地情報である。単に管轄地域における自国民及び自国船舶の保護だけでなく、自国商人の通商貿易活動の促進のために必要な情報の収集・サービスの提供の情報などが記載されている。アメリカの領事報告には、Annual, Monthly, Special Consular Report, Daily, Weekly, Special Agent Series, Trade Promotion Series があり、本報告は、Special Consular Report に分類されるものである。本報告 Consulate Special Report on Industrial Conditions 12/1907 は、擦れた部分もあるタイプライターの文字で記載された、126 頁のカーボン紙による複製である。126 ページ中、68 頁（54％）を占める部分が、様々な業種の計 34 の会社に関する 15 項目に及ぶ実態調査の報告であり、18 頁

（14％）が労働者の賃金・労働時間・休日などの実態にあてられている[3]。

こうした報告書が作成されたのは、1903年に設置された商務労働省が多くの商務官を任地に派遣し、生産品の詳細や貿易状況の報告・作成をさせたことによる。1910年代から1920年代に商務省が拡大するに従って、領事館付きの商業や貿易関係の職員が増員されていった（Werking, 1981）。

本報告の作成者であるJohn H. Snodgrassの経歴[4]については、次のようなことが判明した。1870年3月15日に、オハイオ州にあるWilliamstownという町に誕生し、1898年の米西戦争で陸軍の兵士として従軍したあと、新聞編集者として活動した。その後アメリカ領事として、プレトリア（1905-1908）と神戸（1908-1909）に、ロシア総領事としてモスクワ（1909-1917）に赴任したが、その後の消息は不明で、墓所の位置もわかっていない。

神戸領事時代の雑誌記事“Japanese Camphor Trade”（Snodgrass, 1908）は、神戸からの樟脳輸出が減少し市場価格が下がってきていること、その原因としてドイツの人造樟脳の開発や中国製の自然樟脳製品登場などを挙げている。また、“Japan's Electrical Era”（Snodgrass, 1909）では、ここ10年間の日本における電気関係の急速な普及を述べ、鉄道・電灯・電気機械・発電機などの輸入数量や価格、それに伴う社会の著しい進歩、会社数や経営規模の拡大化を述べている。

**参考文献**

中武香奈美（2000）「横浜開港資料館で公開する海外複製資料（続）―各国政府文書を中心に―」『横浜開港資料館紀要』18, pp.196-210.

Snodgrass, J. H. (1908) Japanese Camphor Trade. *Journal of Industrial and Engineering Chemistry*, 1(2), pp.135-142.

Snodgrass, J. H. (1909) Japan's Electrical Era. *New York Times*, March 21.

Werking, R. H. (1981) United States Consular Reports: Evolution and Present Possibilities. *Business History*, 23(3), pp.300-304.

**注**

1）本報告の扉表紙には、Industrial Conditions in Foreign Countries 7/12/1908 とされ、NARA が受け入れる際に、誤った年を記載したと考えられる。

2）横浜開港資料館では、神戸領事館の下記資料のマイクロフィルムを所蔵する（中武、2000）。

General Records of the Department of State (RG59) の内、Consular Despatchers: Osaka & Hiogo, 1868-1906 (N.A.M.460)

3）本報告中には、「情報のもとは、個人的な調査によるものである」と書かれている。

4）“Index to Politicians” http://politicalgraveyard.com/bio/snelling-snover.htn

（大学院修士課程学生）

表 紙

Industrial Conditions in Foreign Countries

神戸、大阪、京都、名古屋、四日市、奈良、堺、岡山、広島、和歌山、舞鶴の地域を含む神戸領事館管区の報告書である。

1908 年 6 月 15 日のアメリカ合衆国国務省の指示によって作成した。

アメリカ領事　John H. Snodgrass　　1908 年 12 月 7 日　神戸

目次〔頁数は本報告原本の頁数を示している。〕


| | |
|---|---|
| Ⅰ　産業 | 1-6 |
| Ⅱ　労働状況 | 6-11 |
| Ⅲ　製造価格 | 11 |
| Ⅳ　価格 | 12-16 |
| Ⅴ　アメリカへの輸出 | 16-17 |
| Ⅵ　外国貿易に関する関税 | 17 |
| 明細　A　　労働者の賃金、労働時間、調査記録 | 18-26 |
| 明細　B　　各種工場の実態（34 社） | 27-94 |
| 統計 | |
| 神戸港の国別輸出入（1906 年・1907 年）＊ | 95-96 |
| 神戸港への輸入品　（1906 年・1907 年）＊ | 97-98 |
| 神戸港からの輸出品（1906 年・1907 年）＊ | 99-100 |
| アメリカから神戸港への輸入品（1906 年・1907 年）＊ | 101-102 |
| 神戸港からアメリカへの輸出品（1906 年・1907 年）＊ | 103-104 |
| アメリカへの輸出品目の変化　（1897 年・1907 年）＊ | 105-106 |
| 神戸港へのアメリカ関連の輸入品と国（1906 年・1907 年）＊ | 107-108 |
| 大阪港への輸入〔表 A〕 | 109-110 |

大阪港からの輸出〔表 B〕 111-113
神戸港、大阪港以外のサブ・ポートでの貿易＊ 114
紡績工場の実態（資本金、予備資金、紡錘、織機）〔表 C〕 115
主要な会社の配当率の変化（1903 年～ 1907 年）〔表 D〕 116
大阪港への外国貿易船舶出入り（1907 年）〔表 E〕 116
神戸港への外国貿易船舶出入り（1907 年）＊ 117
神戸港の関税徴収金額（1906 年・1907 年）＊ 117
製紙工場の実態（名称、住所、資本金、動力の種類）〔表 F〕 118
業種別の賃金比較（1895 年、1906 年、1908 年）〔表 G〕 119-121
生活・産業に必要な品物の価格の日米比較 〔表 H〕 122-125
地元小売業者販売の生活必需品の価格〔表 I〕 125-126

---

**注**

（1）＊は、『神戸港外国貿易概況』（1908、神戸税関発行）と対照すると、数値の一部に違いが見られたが、ほぼ一致するため省略した。『神戸港外国貿易概況』の掲載箇所は下の表を参照。『神戸港外国貿易概況』では、日本円表示だが、本報告ではドル表示となっている。

本報告と『神戸港外国貿易概況』の記載内容の関係

| 本報告　目次　統計 | 『神戸港外国貿易概況』 | 備考 |
|---|---|---|
| 神戸港の国別輸出入 | 353-355 頁 | 国名については、ほぼ一致 |
| 神戸港への輸入品 | 19-35 頁 | 『神戸港外国貿易概況』には詳細に記載 |
| 神戸港からの輸出品 | 8-19 頁 | 『神戸港外国貿易概況』には詳細に記載 |
| 米国から神戸港への輸入品 | 422-424 頁 | 輸入品目については、ほぼ一致 |
| 神戸港から米国への輸出品 | 419-421 頁 | 輸出品目については、ほぼ一致 |
| 米国への輸出品目の変化 | 419-421 頁 | 1897 年の数値は確認できず |
| 米国関連の神戸港への輸入 | 19-35 頁 | 本報告には 5 品目記載 |
| サブ・ポートでの貿易 | 507-520 頁 | 輸入金額は一致、輸出金額は一致せず |
| 神戸港外国貿易船舶出入 | 448-449 頁 | 出港・入港の隻数、噸数ともに一致 |
| 神戸港関税徴収金額 | 499-500 頁 | 本報告は輸入税・噸税・諸収入を記載するが、砂糖・織物・石油消費税は記載無 |

(2)〔表 A〕～〔表 I〕は、本報告の資料にしたがって掲載する。但し、合計が一致しない場合は、表中に＊＊で示している。
(3) 本報告に見える神戸港のサブ・ポートは、堺、浜田、糸崎、宮津で、大阪港のサブ・ポートは、四日市、武豊、敦賀、伏木、七尾である。

---

## Ⅰ　産業

神戸領事管区は、日本の主要な商業地の中心である。1907 年、この管区での総貿易額は、221,932,132 ドルで、これは日本の総貿易額の約半分を占めている。主要な産業は、様々な分野の製造業、造船、農業、鉱業、漁業である。昨年の輸入は、135,735,203 ドルという巨額に達し、輸出は 86,196,929 ドルである。

1907 年の神戸港の対外貿易総計は、164,392,703 ドルで、そのうち輸入は、111,271,907 ドルとなっている。〔以下は文章になっているが、箇条書きにした。〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ① | アメリカ | 輸入　19,210,599 ドル　輸出　11,556,668 ドル | 総計　30,767,267 ドル |
| ② | イギリス | 輸入　25,461,747 ドル | 総計　29,766,080 ドル |
| ③ | 中国 | 輸出が多い | 総計　28,266,588 ドル |
| ④ | 英領インド | | 総計　24,380,228 ドル |
| ⑤ | ドイツ | 輸入　11,166,869 ドル | 総計　14,572,774 ドル |

(1)[1] この管区で製造された主要なものは次のようなものである。

アンチモン、竹、ビール、茶箱用の木材、青銅、ブラシ、樟脳、カーペット、タバコ、時計、銅、綿フランネル、綿シャツ、シーツ、綿布、綿タオル、綿肌着、綿糸、扇子、魚油、グラス、漆製品、ランプ、皮革、マッチ、マット、ミネラルウォーター、紙、ペパーミント油、磁器、陶器、麻すだ

れ、絹製品、靴下、麦わら細工、製糖、硫黄、おもちゃ、傘。

農業では、米が主要な作物で、その他には、砂糖、大麦、ライ麦、小麦、キビ、豆、ソバ、アブラナ、ジャガイモ、茶、タバコが収入源として耕作されている。

採掘された石炭は、この管区の境界近くにある門司や下関から多く運ばれてくる。この管区にも僅かながら採掘されている。銅、硫黄は大量に産出されている。

(2) 日本にとっての主要な相手国は、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、英領インド、イギリスの直轄領、中国、オランダ領インド、エジプト、フランス、フランス領インド、ドイツ、英国、ハワイ、オランダ、香港、朝鮮、フィリピン諸島、ロシア、タイ、スウェーデン、スイス　そしてアメリカである。

(3) 日本は綿花を英領インド、エジプト、アメリカから輸入している。この形態は日本の輸入の代表的な形である。鉄鉱石は、主に中国から、化学製品は、ドイツと英国から輸入している。

(4) 日本は、1894 年に起こった日清戦争の勝利によって、産業のすべての分野で驚異的な急成長を遂げた。そして、機械・産業に必要な原材料の輸入が急増し、1896 年には、輸入が輸出を超える結果となった。

1896 年、日本政府は通貨改革を行い、金本位制を採用した。銀から金に変わることによって、金本位制を採用し著しい発展をしている国々と同様に、日本の貿易は回復した。

日本の関税率については、諸外国の圧力のもとでの条約によって固定されていた。しかし、新しい法定関税率が 1897 年に改正され、1899 年 11 月から実施された。

輸出税率も当初条約によって定まっていたが、次第に特例が認められていった。生糸、船舶製品、金属、茶、材木については、1899 年 7 月まで

輸出税が課せられていたが、廃止となった。新しい輸入税率を導入することで、輸入品が増大したが、これに対して輸出税を課された品物の輸出増大については、輸出税が全廃されるまで待たねばならなかった。このような変化の結果として、1899 年の貿易は、前年と違って輸入が減少した。この後起こった、中国での義和団の乱、ボーア戦争、日露戦争も、日本貿易に大きな影響を与えた。

1868 年の王政復古の新時代からは、この管区の産業は大いに発展し、製造分野に大変化をもたらした。それまでの家内制工業から次第に工場制を採用し、機械を導入した。

政府は機械化を促進するにあたり、官営模範工場や作業所を設立するなど、あらゆる試みを行った。この官営工場は、人々を刺激し、機械化はすべての分野に拡張していった。製造業の顕著な実例として、1901 年の日本製品の輸出額約 39,500,000 ドルは、4 年後には、89,000,000 ドルに増大したことがあげられる。

企業の資本金確保を促進するために、工場抵当法は、1905 年 3 月に公布された。この法のもとで、工場所有者は抵当権設定によって、工場建設資金をえることができた。抵当権については、次のようなものがあげられる。

(1) 工場や作業所のある土地
(2) 機械、道具、電気棒、金属線、パイプ、レールなど
(3) 地上物件
(4) 賃貸権、文書で取り交わされたもの
(5) 産業における諸権利

工場の基盤は、固定した資産と考えられ、所有権や抵当権の対象となった。

ここ 10 年間の日本の産業界の実例として、次のデータを引用したいと思う。1896 年は、綿花の加工工場数は 61、投資された資本金は 11,430,355

ドルで、紡錘数は 692,384 であった。1906 年には、工場数は 83、投資金額は 20,306,268 ドルに達し、紡錘数は 1,435,406、職工の人数は 62,313 人に上っている。

1897 年、羽二重、甲斐絹、縮緬、綿製品、フランネルは、34,000,000 ドル生産され、1906 年には、68,000,000 ドルに増大した。絹・綿・麻製品も、この期間生産は上向きで、総計は 61,070,000 ドルから 105,170,000 ドルに増大した。

マッチ産業は、ここ 10 年間で倍加した。しかし、機械の導入によって職工数は減少した。1897 年、マッチ産業で働く人々の総計は、47,724 人、3,874,246 ドルの生産高であったが、10 年後では、職工数は 24,189 人、生産高は倍よりも多い 7,758,495 ドルにのぼる。

1897 年、製紙工場数は 9、資本投資は 2,045,930 ドル、34 の機械が運転され、273 人の職工を雇っていた。生産高は、45,250,000 ポンド（1,500,000 ドル）であったが、10 年後には、22 工場、5,820,000 ドルの投資、機械数 118、職工数 5,552 人、生産高 218,020,000 ポンド（7,088,893 ドル）に達した。

陶器・磁器・漆製品・わらの編んだもの（花筵）は、更に顕著な発展を遂げ、職工数は、1897 年の 15,636 人から、1906 年には、320,326 人に増加し、生産高も 5,350,000 ドルから 12,350,000 ドルに達した。

同じことは、敷物関連の商品にも見られ、2,516,365 ドルから、5,059,189 ドルに、皮革製品も、838,557 ドルから 5,441,492 ドルに伸びた。

1897 年には、41 社の電灯工場があり、2,768,069 ドルの資本金、722,458 ドルの初期生産能力だったが、10 年後には、76 社、11,673,007 ドルの資本金になり、生産高は 1,304,286 ドルとなった。

## Ⅱ　労働状況

この報告書の明細 A では、一般的な賃金、一日当たりの労働時間、一

週間当たりの労働日数を記載している。データは、日本政府によって提供された信頼できる統計レポートからと、直接企業主から入手した情報を基にしている。

(1)[2] 鉱業について、この管区についてのデータを手に入れることは難しいため、最新の政府報告（1906）から収集している。金属坑では 73,751 人、非金属坑では 7,582 人、石炭坑では 106,589 人が従事している。石炭坑夫の平均的な賃金は、一日 9 時間労働で、約 41 セント、10 年前は 28 セントだったので、現在では約 2 倍となっている。昇給額は世間一般のものとさほど差はない。坑夫は、1 週間 7 日間働き、1 ヶ月 2 日の休日が確保されている。また、報告書で示されるように、国民祝日も休日となる。

日本では、国土面積 148,852 平方マイルに、50,000,000 人が住み、その 60％以上は農業に従事している。しかし、山が多い国土のため、全体の 6 分の 1 しか耕作に適さない。残りの広大な地域は、長い間非生産的な地域とされていた。土地の肥沃化と灌漑は、確実で有益な収穫のため必要とし、政府は 8 年前に未開拓地域の開発に対して開発奨励に関する法律を制定した。これは、木を伐採し製材すること、未使用の土地に河川からの水を供給することで水田化することが盛り込まれている。政府の援助で、各府県で、未開拓の土地 3000 エーカー以上が、近い将来完全に耕作できる状態になると考えられる。

農業労働者について、最も信頼できる情報では、男性農民の賃金は 19 セント／日、女性農民は 7.5 ～ 13 セント／日、10 ～ 12 時間勤務（日の出から日没まで）、食事つきで、休日は年 2 ～ 3 日の国民祝日となっている。農民人口の大部分は、米作りに従事する。しかしどの作物を作っても賃金は同じで、季節によっても賃金の変化はない。

(2) 女性と子供の労働力は様々な工場で使われている。1897 年、日本の工場総数は、7,287 社から構成され、そこには 437,254 人中、254,462 人の

女性労働者がいた。1906 年には、10,361 社があり、総計 612,177 人中、女性労働者（少女も含む）は 369,233 人が働いていた。

各工場で雇用されていた労働者を分類したのが、下記の〔表 1〕であり、様々な分野で女性や子供が働いていることが分かる。但しこのデータは、この管区だけのものではない。

(3) 日本の労働者とアメリカのそれとは大変異なっている。アメリカの労働者に比べると、日本の労働者はあり得ないほど悲惨な状況にあり、この報告書にある明細Ａがその状況を如実に物語っている。日本の労働者の賃金では、平均的アメリカ人の住宅賃料すら払うことはできない。よく知られているように、日本人は私たちと同じものを食べない。彼らは主として安価な食生活で、わずかな量の主食の米と安い数種類の野菜を食べている。

都市部の普通の労働者の生活費は、約 3 ドル／月、家賃はおよそ 1 ドル、田舎では更に安くなり、2.5 ドル／月くらいである。都市部の多くの実例では、日本の家族は 1 つの家に数家族住み、1 つの部屋を様々に使っている。低所得者の衣服は、最も安い木綿で作られ、2 ～ 3 セントの木の靴を履いている。一般の労働者では、高齢になると収入を得ることは難しく、子どもに頼り、子どもは老親の介護をしなければならないという慣習が存在している。そのため老親は可能であったとしても、若い頃から老後の資金を蓄えるという考えはない。貧しい人々のための施設や老人ホームなどの保護施設はない（個人慈善事業によって維持されている孤児院は除く）。自らの僅かな財産を失った貧しく病弱な人々は、家を捨て路頭に迷う生活を送ることになる。しかしごく少数ではあるが、日・月単位で自分自身が所有する家を賃貸して収入を得ることが可能な労働者も存在する。ここ数年、生活コストは大幅に上昇したとの報告があり、下層生活者は十分に生計を維持することが難しくなっている。しかし、賃金は徐々に上昇し、彼らの生活は上向きとなってきている。ただ、1 年前から不景気傾向がみられ、

表1：(仮題)　各工場の職工数　1906年〔文中の数値を表にした。〕

| 雇用業種 | | 職工 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 工場 | 職種 | 14歳以上（人） | | 14歳未満（人） | |
| | | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 繊維工場 | 生糸 | 7,028 | 132,360 | 114 | 11,124 |
| | 紡績 | 15,059 | 65,126 | 595 | 5,250 |
| | 紡織 | 9,983 | 63,057 | 1,415 | 9,860 |
| | 編物 | 1,171 | 2,407 | 82 | 416 |
| | 小計 | 33,241 | 262,950 | 2,206 | 26,650 |
| 機械・鉄工場 | 機械製作 | 23,904 | 190 | 431 | 18 |
| | 船舶建造 | 18,980 | 105 | 447 | 3 |
| | 道具製作 | 10,000 | 941 | 680 | 130 |
| | 鋳造 | 2,607 | 208 | 250 | 83 |
| | 小計 | 55,491 | 1,444 | 1,808 | 234 |
| 化学工場 | セラミック | 14,859 | 3,260 | 1,817 | 393 |
| | ガス | 431 | 記載なし | 1 | 記載なし |
| | 製紙 | 3,675 | 2,258 | 101 | 221 |
| | 染色 | 3,784 | 1,609 | 281 | 65 |
| | 皮革 | 501 | 44 | 28 | 記載なし |
| | 爆発物 | 6,523 | 10,846 | 1,371 | 3,588 |
| | 化学肥料 | 1,416 | 147 | 1 | 記載なし |
| | 化学薬品 | 2,057 | 673 | 106 | 207 |
| | その他 | 1,713 | 566 | 66 | 97 |
| | 小計 | 34,959 | 19,403 | 3,772 | 4,574 |
| 食べ物・飲み物工場 | 様々な分野 | 15,574 | 381 | 240 | 28 |
| | 砂糖 | 1,136 | 179 | 5 | 記載なし |
| | タバコ | 5,384 | 16,194 | 408 | 1,764 |
| | 茶 | 534 | 665 | 4 | 67 |
| | 穀物 | 2,450 | 199 | 14 | 7 |
| | レモネード・ミネラル水 | 105 | 88 | 記載なし | 7 |
| | 糖菓 | 640 | 156 | 54 | 63 |
| | 缶詰・瓶詰 | 366 | 497 | 31 | 49 |
| | その他 | 1,312 | 629 | 18 | 12 |
| | 小計 | 27,501 | 18,988 | 774 | 1,997 |
| 様々な工場 | 出版社 | 8,940 | 1,259 | 1,589 | 419 |
| | 紙製品工場 | 1,117 | 857 | 285 | 323 |
| | 木・竹工場 | 5,710 | 2,338 | 547 | 604 |
| | 皮革工場 | 822 | 162 | 41 | 6 |
| | 羽毛工場 | 893 | 1,065 | 106 | 219 |
| | マット・麦わら編み工場 | 895 | 7,351 | 311 | 5,032 |
| | 石材工場 | 895 | 21 | 89 | 記載なし |
| | 漆工場 | 319 | 259 | 31 | 3 |
| | その他 | 3,951 | 3,796 | 402 | 448 |
| | 小計 | 22,843 | 16,878 | 3,401 | 7,054 |
| 特別な工場 | 電気工業工場 | 974 | 2 | 記載なし | 記載なし |
| | 金属精製工場 | 49,085 | 8,363 | 840 | 323 |
| | 石炭工場 | 5,975 | 331 | 74 | 42 |
| | 小計 | 56,034 | 8,696 | 914 | 365 |

非常に多くの労働者の解雇があり、経済は縮小し、それによって労働者にとっては困難な状況が生じてきている。

## Ⅲ　製造価格

日本の製造業について信頼できるデータを得ることは大変難しい。品物の価格については、農商務省のリストに拠る。しかしながら、この報告書が、価値の高い確かな情報を得て、満足のいく程度に作成できたのは、率先してデータの提供をしてくれた日本人生産者の好意によるものだと感謝している。〔表H、表Ⅰ〕私たちは、すべての情報が確実であるとは考えていない。この報告書の中に列挙していない品物については、追加報告として後から報告する。

## Ⅳ　価格

(1) この報告書の別のところで生活や産業に必要な価格のリストをあげる。〔生活・産業に必要な品物の価格の日米比較　122-125 頁（表H)〕

(2) 実際には、すべての輸入品の価格は、100 ～ 300％上昇している。これは、この 10 年間に起こった日露戦争勝利に拠る状況の変化や、1906 年 3 月 30 日関税率の改廃によるものである。このことは、日本に居住する外国人の上に重くのしかかっている。彼らの食べ物、身につけるものすべてに課税されることになったからだ。この大きな環境の変化を十分説明するために、主要産物の価格や様々な商品の価格について、戦争以前と現在の関税率の変化を記載する。〔表 2〕

## Ⅴ　アメリカへの輸出

(1) この報告書の別のところで、1897 年・1907 年のアメリカへの輸出品目の変化を比較したものを記載する。〔本報告 105-106 頁に記載。但し、

表2：（仮題）　現在と戦争以前の関税率の変化〔文中の数値を表にした。〕

| 品物 | 現在の関税（%） | 以前の関税（%） |
|---|---|---|
| ウマ | 0.5 | Free |
| ウシ | 25 | 0.5 |
| ヤギ | 25 | 0.5 |
| ブタ | 25 | 10 |
| 家畜の鶏 | 25 | 0.5 |
| その他の動物 | 25 | 0.5 |
| 米 | 15 | Free |
| 小麦 | 15 | 0.5 |
| カラス麦 | 15 | 0.5 |
| 豆類 | 15 | 0.5 |
| その他の穀物 | 15 | 0.5 |
| 野菜 | 40 | 15 |
| 果物・ナッツ類 | 45 | 15 |
| 茶 | 45 | 25 |
| コーヒー | 45 | 20 |
| スパイス | 45 | 15 |
| 粗引き粉、澱粉 | 30 | 10 |
| クラッカー | 40 | 10 |
| マカロニ | 40 | 15 |
| ソース | 45 | 15 |
| 卓上酢 | 45 | 15 |
| 家畜などの生肉 | 30 | 10 |
| 缶・瓶入りの肉 | 40 | 15 |
| ハム、ベーコン | 30 | 15 |
| コンデンスミルク | 40 | 15 |
| バター | 40 | 15 |
| マーガリン | 60 | 15 |
| チーズ | 40 | 15 |
| 肉のエキス | 35 | 15 |
| 乳幼児食など | 35 | 10 |
| 新鮮なたまご | 35 | 25 |
| ミネラル水など | 45 | 10 |
| 砂糖 | 40 | 0.5 |
| 糖蜜 | 40 | 10 |
| 蜂蜜 | 50 | 15 |
| 菓子類 | 60 | 15 |
| ジャム、ゼリー | 60 | 25 |
| 果物の砂糖漬 | 60 | 25 |
| 皮革 | 20 | 15 |
| 羽毛 | 50 | 25 |
| 動物の毛 | 10 | 0.5 |
| 動物の骨 | Free | Free |
| 薬、化学薬品 | 10-50 | 10 |

| 品物 | 現在の関税（%） | 以前の関税（%） |
|---|---|---|
| 綿実油 | 20 | 10 |
| ピーナッツ油 | 30 | 10 |
| 軽油 | 20 | 10 |
| 照明用の油 | 50 | 20 |
| ロウソク | 30 | 15 |
| 繰綿 | Free | Free |
| 綿糸 | 20 | 10 |
| 羊毛糸 | 25 | 10 |
| 綿製品 | 30 | 15 |
| フランネル | 30 | 15 |
| シルク　サテン | 40 | 20 |
| ブランケット | 30 | 15 |
| カーペット | 40 | 20 |
| 防水コート | 40 | 20 |
| シャツ、カラー | 40 | 20 |
| ニットの下着 | 40 | 20 |
| 手袋 | 50 | 20 |
| 靴下､ｽﾄｯｷﾝｸﾞ | 50 | 20 |
| ｽｶｰﾌ､ﾈｸﾀｲ | 50 | 25 |
| 帽子 | 40 | 20 |
| 長靴、靴 | 40 | 20 |
| ボタン | 35 | 20 |
| 紙、印刷用 | 15 | 15 |
| 写真用の紙 | 40 | 15 |
| トランプ | 60 | 35 |
| 写真や絵 | 50 | 25 |
| 印刷された本 | Free | Free |
| 高価な原石 | 40 | 35 |
| 高価な加工石 | 50 | 35 |
| 石炭 | Free | 0.5 |
| 鉄の塊 | 0.5 | 0.5 |
| 鉄棒 | 30 | 10 |
| 鉄亜鉛メッキ | 25 | 10 |
| 鉄ワイヤー等 | 30 | 10 |
| ブリキ薄板 | 15 | 10 |
| 鉄板、薄板 | 25 | 10 |
| 鉄角棒 | 25 | 10 |
| レール | 25 | 10 |
| 線路の補強材 | 25 | 10 |
| パイプ、鉄管 | 20 | 10 |
| アンチモン | 7.5 | 0.5 |
| カトラリー | 40 | 20 |
| 時計の鎖 | 60 | 30 |

| 品物 | 現在の関税（%） | 以前の関税（%） |
|---|---|---|
| ストーブ | 30 | 20 |
| 工具 | 20 | 0.5 |
| レンガ、タイル | 20 | 10 |
| 磁器 | 40 | 20 |
| 機関車 | 20 | 10 |
| 電気車両 | 20 | 10 |
| 車体、自動車 | 50 | 25 |
| 自転車 | 40 | 25 |
| 置き時計 | 30 | 20 |
| 腕時計 | 50 | 30 |
| 写真用の道具 | 50 | 15 |
| ミシン | 20 | 10 |
| タイプライター | 20 | 10 |
| 各種エンジン | 15 | 10 |
| オレゴン木材 | 10 | 0.5 |
| ブラシや箒 | 40 | 20 |
| ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ | 20 | 0.5 |
| 馬具や鞍 | 40 | 25 |
| ﾄﾗﾝｸ、カバン | 40 | 20 |
| 絵画の額縁 | 50 | 20 |
| ランプ・ランタン | 30 | 20 |
| 傘 | 50 | 25 |
| 浴用石鹸 | 50 | 20 |
| 製造タバコ | 250 | 150 |
| マッチ | 40 | 20 |
| 花火 | 40 | 30 |
| おもちゃ | 50 | 25 |
| スポーツ用品 | 50 | 25 |
| 写真フィルム | 40 | 15 |
| 香料 | 60 | 30 |
| 爆発物 | 25 | 15 |
| 武器各種 | 40 | 25 |
| 弾丸、薬莢 | 40 | 25 |
| セルロイド | 15 | 10 |
| 櫛など | 40 | 20 |
| 蜜ろう | 20 | 15 |
| 製紙の木材 | 0.5 | 0.5 |
| 木炭 | 15 | 0.5 |
| 紡績機や織機 | 15 | 10 |
| 電信電話器具 | 20 | 10 |
| レコード | 50 | 25 |
| 音楽関係道具 | 40 | 15 |
| 眼鏡 | 40 | 10 |

『神戸港外国貿易概況』と下記の記載にほぼ一致するので省略。〕

(2) アメリカへの現在の関税は、ある程度日本からのアメリカ向け輸出を制限するものとなっている。次に述べる品物　青銅、金属装飾品、象牙やその他の彫刻、紙製品、洋風の女性用日傘など、ランタン、おもちゃ、漆製品、屏風等は、アメリカやヨーロッパで生産される品物と直接競争するものではないため、1897 年の関税率改廃には低く抑えられた。しかし、関税改正は、日本にとっては好都合であり、より安い価格で大量に商品を売買することが可能となった。日本の製造業者や輸出業者によって低い売値価格が維持されている現在の自由競争のもとでは、関税改正の利益が、消費者や生産者に還元されることは疑問である。

(3) 1907 年の輸出リストで、最も注目すべき項目は、次に述べる品物　磁器、コピー紙やその他の紙、ナプキン、扇子、皮製品、ブラシ等がかなり増加したことである。それらすべてが、アメリカやヨーロッパで生産されるものと類似し競争しうるものである。これらは、日本の輸出において明らかに大幅に増加している。これは、アメリカの関税率を低くしてしまったことが原因と考えられる。

(4) もしアメリカの関税率が現在よりも更に低くなれば、アメリカへ輸出する品物のリストには、この管区で生産・発売されたすべての品物が載るであろうと思われる。

## Ⅵ　外国貿易に関する関税

外国貿易に関連した情報は、横浜の総領事から連絡された通りで、農商務省でつくられたものとも一致していると考えられる。

**明細A　労働者の賃金と労働時間について**

名前：John H. Snodgrass

肩書：領事

場所：神戸、日本

1908年の日本における、一般的な神戸、大阪、京都の労働者の賃金と労働時間について、職業別に具体的に挙げる。情報のもとは、個人的な調査によるものである。

〔下記には、業種別に「性別、週間労働日数、一日あたりの労働時間、フルタイムの一日の賃金」の数値などが記載されているが、明細A「調査記録」及び表G「業種別の賃金比較」の内容と重複するため、省略した。〕

**明細　A　　労働者の賃金、労働時間の調査記録**

明細Aの質問への回答情報は、領事館管区にある様々な種類の労働者の雇い主から得ることができた。最小・最大がある場合は、各所を巡回し資料を集めたものを平均化した。この報告書の別のところ〔業種別の賃金比較　119-121頁（表G）〕で、更に理解しやすいものを載せている。

**パン職人**

日本人は、アメリカ人のようにパンを食べないので、パン屋の必要数は少ない。賃金は1カ月当たり6～16ドルで、月2日間の休日があり、毎月1日と15日にあたる。勤務時間は、18時～5時までで、真夜中に1時間の休憩がある。もしパン職人が、勤務外に呼ばれると、1日当たり50%の賃金の上乗せがある。

**レンガ職人**

平均賃金は、1 日 90 銭（45 セント）で、9 時間労働。1.5 ～ 2 時間の休憩は、正午と 9 時と 15 時の 30 分間。第 1、3 日曜日は休日で、すべての祝日も休日である。

**大工**

大工には 3 つの階級がある。親方は 65 セント／日、第 1 助手は 50 セント／日、第 2 助手は 40 セント／日。40 分間は昼食に、15 分ずつ 9 時と 15 時に休憩時間がある。毎月 1 日と 16 日が休日であるが、祝日の給料は支払われない。賃金は、毎月 15 日と 30 日に支払われる。

**半熟練工・人夫**

貿易関連の常勤者は、35 セント／日、11 時間労働である。正午に 1 時間 30 分～ 2 時間休憩がある。労働者階級の人々にとっては、土曜日の午後は休日とは認識していない。

**配管工**

外国人のつくった家や建物は稀なため、この種の労働内容には、差し迫った重要な必要性はない。平均賃金は、35 セント／日で、その他の条件は、上述の半熟練工などと同じである。

**石材工**

1 日平均 9 時間働き、42.5 セント／日を受け取る。休日は、毎月 2 日間であるが、祝日には賃金は支払われない。

**タバコ職人**

タバコは日本で生産されていなかったが、最近タバコの専売公社が活動し始め、それがきっかけとなってタバコ製造が盛んになった。週 6 日間、平均 9 時間／日働き、男性は 12.5 ～ 65 セント／日、少女は 5.5 ～ 25 セント／日の賃金である。ボーナスは、年 4 回支払われ、その総計は通常の勤務の 3 週間の賃金に等しい。深夜では、20％の追加料金、祝日勤務は 2 倍

となる。30 分間昼食時間があり、9 時と 15 時にそれぞれ 15 分の休憩がある。

**縫製工**

機械縫製工は 15 ～ 40 セント／日、手での縫製工は 25 セント／日、1 日 9 時間労働で、7 時から 17 時までの勤務。正午に 1 時間の休憩があり、毎月 1 日と 15 日が休日である。

**石炭坑夫**

この管区には、僅かな鉱床があるのみで、データは神戸にある事務所から得た。賃金は 28 ～ 55 セント／日、正午に 1 時間、朝と午後にも休憩がある。月に 2 回の休日があり、祝日も休日である。

**石炭半熟練坑夫**

20 ～ 30 セント／日、その他は上述の石炭坑夫と同じである。

**植字工**

8 時～ 17 時に働き、2 時間の休憩は、正午に 1 時間、9 時と 15 時に 40 分ずつとる[3)]。6 日／週勤務で、日曜日と祝日が休み。賃金は 32 ～ 60 セント／日である。

**農業従事者**

農業については、様々な地域で、異なった賃金となっているため、平均を割り出すのは大変難しい。米作りの男性農民は、14.5 ～ 23 セント／日、女性は 7.5 ～ 13.5 セント／日、である。12 時間勤務で食事が付いている。細やかな贈り物として、年 2 回の休日がある。1 年中同じ賃金である。

**ガラス職人**

25 セント～ 1 ドル／日で、毎月 1 日と 15 日がそれぞれ休日となる。臨時や深夜勤務の賃金は、通常と同じであるが、常勤者には僅かなボーナスがある。

**馬の蹄鉄工**

9 ドル～ 15 ドル／月で、9 時間勤務。1 ～ 1.5 時間の休憩がある。毎月 1 日と 15 日が休日で、祝日は休日になり賃金が支払われる。規則では、残業や深夜勤務は勘定に入り、半日勤務も認められている。

**鉄職人**

すべての鉄職人は同じ賃金、15 ～ 50 セント／日である。技術力などによって変わる。12 時間勤務で、1 ～ 2 時間の休憩があり、世間一般の日本の労働者と同じ様に休憩時間が割り振られ、正午に 1 時間、9 時と 15 時にそれぞれ 30 分ずつ。1 日と 16 日が毎月休日で、祝日も休日となる。

**製鋼工**

40 ～ 75 セント／日で、10 時間勤務。正午の 1 時間の休憩を差し引く。神戸の川崎造船所の労働者は、年に 2 回の休暇があるが、この管区内の他の地域の製鋼工は、毎月通常 2 日間の休日だけである。ボーナスは、10 日間相当で、年 2 回支給される。

**醸造工**

17.5 ～ 60 セント／日、9 時間労働で支払われる。正午に 1 時間休憩、月の 2 日間は休日。ボーナスは、6 カ月ごとにその月末に支払われる。

**製陶工**

平均的には 30 セント／日、23.5 ～ 36 セント／日の間で支払われる。

**都市の日雇い労働者**

25 ～ 35 セント／日、9 時間労働。雇用者は、通常正午に 1 時間、9 時と 15 時に 30 分の休憩を与える。休日はない。

**森林での製材従事者**

35 ～ 50 セント／日、9 時間労働で、毎月 1 日と 16 日が休日。男性は、20 ～ 40 セント／日、女性は 10 ～ 25 セント／日。製材したものは、茶箱の原料の材となる。

**鍛冶職人**

鍛冶屋や金属の鋳型をつくる職人は、約 28.5 セント／日、10.5 時間勤務である。最も優れた熟練工になると、40 セント／日支払われる。正午に 1 時間休憩で、毎月 1 日と 16 日が休日で、祝日も休日である。

**機械工**

日本では、機械工に最も高額な賃金が支払われている。45 セント～ 1.5 ドル／日で、9.5 時間労働である。

**製紙工**

立地する工場によって、さまざまな賃金がある。平均的な男性パルプ工で、10 ～ 35 セント／日、女性は 9 ～ 11.5 セント／日。機械で作業する労働者は、20 ～ 40 セント／日、10.5 時間勤務である。1 ～ 2 時間、正午と 9 時・15 時に休憩。毎月 1 日と 16 日が祝日とともに休日で、賃金は支払われる。

**皮なめし工**

7.5 ～ 10 ドル／月、8 時間勤務で、正午に 1 時間休憩。毎月 1 日と 16 日は休日である。

**パターン職人**

平均すると熟練工の賃金は、30 セント／日。正午に 1 時間休憩。1 日と 16 日が毎月休日として与えられている。

**靴職人**

日本には靴の工場はない。すべて手作業によって行われる。裏地を縫う職人では、45 セント／日、甲皮を切る職人は、50 セント／日。9 時間労働で、正午 1 時間休憩、毎月 1 日と 16 日は終日休日となる。

**絹を織る職人**

労働者は、7 日／週、9 時間働き、20 セント／日で雇われている。

**織物従事者**

綿紡績工や織工は、17.5 ～ 50 セント／日を受け取り、12 時間勤務。正午と 9 時と 15 時に休憩を振り分ける。工場の機械は終日運転しているため、それぞれ 12 時間勤務。1 週間に 6 日間勤務する。女性は、9 ～ 35 セント／日、子どもは 6 セント／日、年に 2 回のボーナスは、半月分の賃金に値する金額が支払われる。

羊毛の紡績工や織工は、男性で 10 ～ 25 セント／日、女性で 8 ～ 15 セント／日の賃金を受け取る。労働時間や休みなどの条件は綿関係と同じ。主要な国家祝日は賃金が支払われる休日である。

**羊毛機械工**

7 時から 17 時までの勤務で、正午 1 時間休憩がある。一般的な賃金は、13 セント／日で、通常毎月 1 日と 16 日が休日である。

**明細 B　各種工場の実態（34 社）**

名前：John H. Snodgrass

肩書：領事

場所：神戸、日本

〔明細 B は、原文では 68 頁に達し、表に整理した。〕

**統計**

〔表 A〕～〔表 I〕

---

**注**

1）この番号は原文にはないが補った。
2）この番号は原文にはないが補った。
3）時間合計は合わないが原文に従った。

# 明細Ｂ：各種工場の実態（34 社）

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | | | | | | | | | | 9 | 10 | 11 | | | | 12 | | | | 13 | 14 | 15 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 地域 | 工場・会社名 | 生産品 | 生産数量 | 生産品詳細 | 調査期間 | 費用内訳　$ | | | | | | | | | | 材料説明 | 調査労働日数 | 人件費の内訳　$ | | | | 労働者数（人） | | | | 労働時間/日 | 労働日数/週 | 労働時間/週 |
| | | | | | | | 現場人件費 | 材料費 | 事務人件費 | 燃料費 | 修理費 | 税金 | 投資 | 減価償却費 | 保険 | 合計金額 | | | 16歳以上男性 | 16歳以上女性 | 16歳未満 | 合計 | 16歳以上男性 | 16歳以上女性 | 16歳未満 | 合計 | | | |
| 1 | 兵庫 | ナガタ竹工場 | 竹 | 4,000,000pieces | 釣棹、手箒 | 1907年 | 15,000.00 | 27,500.00 | 2,500.00 | 0.00 | 1,500.00 | 250.00 | 5,000.00 | 2,500.00 | 300.00 | 54,550.00 | 生竹 | 365 | 11,000.00 | 4,000.00 | 0.00 | 15,000.00 | 100 | 50 | 0 | 150 | 10 | 7 | 70 |
| 2 | 兵庫 | 日本毛織物会社 | 毛布、毛織物製品 | 5,000,000yards | 主に陸海軍衣料 | 1908年上半期 | 22,282.32 | 312,019.06 | 8,628.89 | 14,573.47 | 11,632.55 | 8,400.55 | 56,250.00 | 1,510.50 | 2,023.59 | 437,320.93 | 豪州からの原料 | 175 | 14,854.78 | 7,427.54 | 0.00 | 22,282.32 | 305 | 252 | 0 | 557 | 24 | 7 | 168 |
| 3 | 大阪 | 関西ブラシ工場 | ブラシ | 髪ブラシ13,000doz.<br>爪ブラシ8,000Gross<br>歯ブラシ7,000Gross | 髪用、衣類用、爪、歯、机ブラシ | 1908年上半期 | 19,780.00 | 36,587.50 | 4,730.00 | 1,747.50 | 1,195.00 | 6,225.00 | 10,000.00 | 0.00 | 450.00 | 80,715.00 | 木・骨と毛 | 330 | 13,187.00 | 6,593.00 | 0.00 | 19,780.00 | 200 | 217 | 0 | 417 | 10 | 7 | 70 |
| 4 | 神戸 | スズキ樟脳精製会社 | 精製した樟脳、樟脳油 | 500,000lbs. | 精製樟脳 | 1907年 | 3,750.00 | 160,000.00 | 750.00 | 3,000.00 | 2,500.00 | 275.00 | 10,000.00 | 2,500.00 | 500.00 | 183,275.00 | 天然樟脳 | 330 | 2,500.00 | 1,250.00 | 0.00 | 3,750.00 | 20 | 40 | 0 | 60 | 10 | 7 | 70 |
| 5 | 大阪 | カネハラ缶詰工場 | 魚・果物・野菜・貝缶詰 | 703,422lbs. | 缶詰 | 1907年 | 3,865.00 | 33,650.00 | 2,060.00 | 9,720.00 | 600.00 | 560.00 | 0.00 | 150.00 | 185.00 | 50,790.00 | 生の原料 | 350 | 1,890.00 | 1,751.00 | 225.00 | 3,866.00 | 18 | 30 | 5 | 53 | 10 | 7 | 70 |
| 6 | 大阪 | 日本コークス製造会社 | コークス | 4,778tons | 記載なし | 1907年 | 297.00 | 28,271.00 | 1,074.00 | 0.00 | 4,862.50 | 439.32 | 1,020.00 | 0.00 | 0.00 | 35,963.82 | 未選別石炭 | 310 | 297.00 | 0.00 | 0.00 | 297.00 | 30 | 0 | 0 | 30 | 10 | 7 | 70 |
| 7 | 大阪 | 住友　シンド　ショウ | 銅製の棒、薄板、金属線、管、ベルト、真鋳・亜鉛製品、 | 3,584,190lbs. | 記載なし | 1907年 | 26,144.00 | 570,705.00 | 7,500.00 | 29,200.00 | 10,000.00 | 2,250.00 | 64,000.00 | 7,500.00 | 25,000.00 | 742,299.00 | 銅、亜鉛、 | 330 | 26,144.00 | 0.00 | 0.00 | **26,144.00 | 349 | 0 | 0 | 349 | 10 | 7 | 70 |
| 8 | 兵庫 | 鐘淵　紡績工場 | 綿糸 | 10,558,800lbs. | 8s～20s | 1908年上半期 | 77,415.01 | 1,321,750.99 | 12,903.77 | 22,075.22 | 16,946.04 | 23,455.01 | 0.00 | 0.00 | 2,408.45 | 1,476,954.49 | 米国・インドからの綿花 | 150 | 19,624.87 | 57,790.14 | 0.00 | 77,415.01 | 500 | 20000 | 0 | 20500 | 20 | 7 | 140 |
| 9 | 神戸 | タカオ造船・鉄工場 | エンジン・船 | 13隻進水船、30ボイラー・エンジン | 船舶エンジン | 1907年 | 20,000.00 | 75,000.00 | 3,000.00 | 2,500.00 | 500.00 | 679.85 | 0.00 | 0.00 | 75.00 | 101,754.85 | 鉄、鋼鉄、木など | 330 | 20,000.00 | 0.00 | 0.00 | 20,000.00 | 200 | 0 | 0 | 200 | 10 | 7 | 70 |
| 10 | 大阪 | 大阪　リュソ会社 | 硫黄酸、化学肥料 | 119,407,449lbs. | 記載なし | 1908年上半期 | 16,924.43 | 532,866.90 | 9,036.98 | 24,273.93 | 7,612.91 | 7,524.85 | 7,899.15 | 13,925.00 | 4,373.47 | 624,437.62 | 硫酸アンモニウム、硝酸ソーダ、リン | 330 | 16,382.05 | 541.62 | 0.76 | 16,924.43 | 220 | 15 | 1 | 236 | 12 | 7 | 84 |
| 11 | 大阪 | 日本フランネル会社 | フラノ、毛布、ショール | 663,365yards | 陸海軍・政府用毛布や防寒肌着 | 1908年上半期 | 15,587.65 | 81,172.65 | 1,727.23 | 5,741.80 | 2,287.59 | 1,766.34 | 2,611.62 | 2,000.00 | 657.35 | **113,554.23 | 英国・豪州からの原料 | 150 | 1,885.50 | 13,702.15 | 0.00 | 15,587.65 | 70 | 290 | 0 | 360 | 12 | 6 | 72 |
| 12 | 大阪 | 三菱電気分解工場 | 金・銀・銅・硫酸銅 | 1,559,670lbs. | 銅・銀・金鋳型 | 1907年 | 19,280.74 | 3,726,054.00 | 10,281.23 | 52,315.00 | 39,902.50 | 6,410.60 | 0.00 | 10,556.48 | 1,356.50 | 3,866,157.05 | 金、銀、銅鉱石 | 350 | 19,280.74 | 0.00 | 0.00 | 19,280.74 | 200 | 0 | 0 | 200 | 11 | 7 | 77 |
| 13 | 大阪 | 日本皮革製造会社 | 白革、靴革、デザイン革 | 58,000pieces | 記載なし | 1907年 | 7,500.00 | 290,000.00 | 7,500.00 | 4,200.00 | 3,000.00 | 3,000.00 | 45,000.00 | 0.00 | 3,000.00 | 363,200.00 | 生の原料、半加工品 | 300 | 7,500.00 | 0.00 | 0.00 | 7,500.00 | 130 | 0 | 0 | 130 | 10 | 6 | 60 |
| 14 | 兵庫 | 日本材木会社 | 材木 | 50,000pieces | 船・家建材、マッチ箱 | 1907年下半期～1908年上半期 | 4,000.00 | 100,000.00 | 1,800.00 | 0.00 | 3,600.00 | 550.00 | 2,610.00 | 0.00 | 3,000.00 | 115,560.00 | 記載なし | 365 | 4,000.00 | 0.00 | 0.00 | 4,000.00 | 150 | 0 | 0 | 150 | 10 | 7 | 70 |
| 15 | 神戸 | 日本マッチ製造会社 | マッチ | 6,500,000gross | リンを含む安全マッチ | 1907年下半期～1908年上半期 | 250,000.00 | 975,000.00 | 18,000.00 | 15,000.00 | 30,000.00 | 10,000.00 | 50,000.00 | 37,500.00 | 4,250.00 | 1,389,750.00 | 塩素酸カリウム、リン、紙、箱、小枝 | 310 | 100,000.00 | 125,000.00 | 25,000.00 | 250,000.00 | 960 | 3360 | 480 | 4800 | 11 | 7 | 77 |
| 16 | 神戸 | 日本マット会社 | マット類 | 1,200rolls | 240～360warpe | 1908年31日間 | 1,080.00 | 1,740.00 | 25.00 | 0.00 | 60.00 | 8.00 | 0.00 | 8.00 | 1.00 | 2,922.00 | ジュート・染料 | 31 | 0.00 | 1,080.00 | 0.00 | 1,080.00 | 0 | 400 | 0 | 400 | 11 | 7 | 77 |
| 17 | 大阪 | 日本薬品化学工場 | すべての種類の粉末・錠剤薬 | 粉末573,035lbs.、錠剤786,600pieces | 記載なし | 1907年 | 3,153.47 | 62,070.00 | 4,338.12 | 2,469.89 | 8,791.90 | 1,611.51 | 12,125.00 | 1,950.00 | 656.50 | 97,166.39 | 製品原料 | 330 | 2,053.47 | 1,100.00 | 0.00 | 3,153.47 | 39 | 40 | 0 | 79 | 7 | 7 | 49 |
| 18 | 大阪 | 日本金属製造所 | 金属ボタン、ランプのバーナー | ボタン100,000gross<br>バーナー100,000doz. | 中国衣料に使用されるボタン | 1908年上半期 | 9,400.00 | 26,000.00 | 1,350.00 | 600.00 | 250.00 | 991.00 | 0.00 | 0.00 | 30.40 | 38,621.40 | 銅や鉄の薄板 | 330 | 5,013.00 | 4,319.50 | 67.50 | 9,400.00 | 57 | 31 | 15 | 103 | 12 | 7 | 84 |
| 19 | 大阪 | 日本塗料製造会社 | ペンキ | 1,933,500lbs. | 鉛含有ペンキ | 1908年上半期 | 4,018.50 | 162,546.00 | 1,256.14 | 2,500.00 | 600.00 | 設立1年無税 | 22,500.00 | 0.00 | 593.75 | 194,014.39 | 鉛・亜鉛など、油 | 330 | 4,018.50 | 0.00 | 0.00 | 4,018.50 | 125 | 0 | 0 | 125 | 10 | 7 | 70 |
| 20 | 大阪 | ノノムラ香料工場 | 香料とトイレ製品 | 52,000doz. | 安価な香料 | 1907年 | 1,075.00 | 40,000.00 | 500.00 | 0.00 | 2,000.00 | 490.00 | 0.00 | 0.00 | 160.00 | 44,225.00 | 英国・独国からのエキス | 350 | 575.00 | 500.00 | 0.00 | 1,075.00 | 9 | 10 | 0 | 19 | 9 | 7 | 63 |
| 21 | 大阪 | ゲント株式会社 | 磁器 | 12,000pieces | 茶器、花瓶 | 1907年 | 9,000.00 | 6,000.00 | 1,000.00 | 4,000.00 | 900.00 | 490.00 | 2,025.00 | 0.00 | 61.00 | 23,476.00 | 鉛、粘土 | 300 | 7,000.00 | 2,000.00 | 0.00 | 9,000.00 | 120 | 60 | 0 | 180 | 10 | 7 | 70 |
| 22 | 大阪 | 日本油布（防水布）工場 | レインコート、帽子 | 500,000yards | レインコート、帽子 | 1907年 | 8,500.00 | 35,000.00 | 875.00 | 250.00 | 1,250.00 | 600.00 | 750.00 | 0.00 | 300.00 | 47,525.00 | 綿布、樹脂 | 330 | 5,250.00 | 3,250.00 | 0.00 | 8,500.00 | 35 | 40 | 0 | 75 | 10 | 7 | 70 |
| 23 | 兵庫 | 日本米穀会社 | 白米・玄米 | 468,785pounds | 精製白米 | 1908年上半期 | 650.00 | 100,000.00 | 600.00 | 333.00 | 350.00 | 230.00 | 0.00 | 250.00 | 350.00 | 102,763.00 | 玄米 | 152 | 650.00 | 0.00 | 0.00 | 650.00 | 180 | 0 | 0 | 180 | 24 | 6 | 144 |
| 24 | 大阪 | カクイチ　ゴム工場 | ゴム製品 | 9,089lbs. | ホース・ドアマット、靴底、タイヤ | 1ケ月 | 310.00 | 2,350.00 | 175.00 | 75.00 | 70.00 | 設立1年無税 | 0.00 | 0.00 | 1.71 | 2,981.71 | インド・バラの生ゴム | 330 | 271.95 | 38.05 | 0.00 | 310.00 | 37 | 13 | 0 | 50 | 10 | 7 | 70 |
| 25 | 伊丹 | ユタカオリ合資会社 | ラグ・マット | 11,800,000sq.ft. | 綿麦混紡、綿亜麻、混紡、麦わら敷物 | 1907年 | 8,400.00 | 45,000.00 | 1,800.00 | 470.00 | 450.00 | 900.00 | 1,250.00 | 600.00 | 70.00 | **58,895.00 | ジュート、麦わら、綿 | 360 | 900.00 | 7,500.00 | 0.00 | 8,400.00 | 10 | 200 | 0 | 210 | 10 | 7 | 70 |
| 26 | 大阪 | テンマ織物工場 | 敷布、綿糸 | 綿糸104,000lbs.<br>敷布600,000yards | 陸海軍用の敷布 | 1908年10月 | 3,750.00 | 25,000.00 | 430.00 | 1,500.00 | 5,000.00 | 750.00 | 2,500.00 | 5,000.00 | 75.00 | 44,005.00 | 米国・インド・中国からの綿花 | 27.5 | 750.00 | 3,000.00 | 0.00 | 3,750.00 | 100 | 600 | 0 | 700 | 12 | 7 | 84 |
| 27 | 神戸 | ダイブツ靴・長靴製造所 | 靴、長靴など | 1,000shoes | 男性・女性用の靴 | 6ヶ月 | 750.00 | 2,500.00 | 150.00 | 0.00 | 10.00 | 25.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 3,435.00 | 皮革 | 168 | 750.00 | 0.00 | 0.00 | 750.00 | 66 | 0 | 0 | 66 | 12 | 7 | 84 |
| 28 | 笠岡 | ノサワ会社 | 白く丸形の素朴な麦わら帽子 | 4,575pcs. | 麦わらの編んだもの | 2ヶ月 | 183.00 | 166.53 | 15.00 | 0.00 | 2.25 | 0.75 | 5.82 | 89.67 | 1.00 | 464.02 | 麦わらの幹・茎、節と薄い皮の切ったもの | 61 | 0.00 | 0.00 | 183.00 | 183.00 | 0 | 0 | 50 | 50 | 10 | 7 | 70 |
| 29 | 神戸 | 神戸砂糖精製会社 | 精製砂糖 | 382,800lbs. | 白砂糖 | 1907年下半期～1908年上半期 | 18,664.80 | 94,250.00 | 6,384.00 | 22,250.00 | 250.00 | 1,000.00 | 0.00 | 2,700.00 | 250.00 | 145,748.80 | ジャワからの粗糖 | 303 | 18,664.80 | 0.00 | 0.00 | 18,664.80 | 270 | 0 | 0 | 270 | 12 | 6 | 72 |
| 30 | 神戸 | 日本茶輸出会社 | 茶 | 1picul（約60kg） | 精製された緑茶 | 1907年下半期～1908年上半期 | **1.08 | 17.50 | 0.50 | 0.45 | 0.80 | 0.17 | 0.41 | 0.10 | 0.05 | 21.06 | 生の茶葉 | 150 | 4,500.00 | 6,300.00 | 0.00 | 10,800.00 | 50 | 280 | 0 | 330 | 10 | 6 | 60 |
| 31 | 大阪 | タカハシ商店 | 紙・木・綿製のおもちゃ | 記載なし | 大部分は安価な輸出用品 | 1907年 | 670.00 | 12,500.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 1,200.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 14,370.00 | 竹、綿、紙、針金 | 350 | 180.00 | 490.00 | 0.00 | 670.00 | 2 | 18 | 0 | 20 | 10 | 7 | 70 |
| 32 | 大阪 | 大阪靴下・下着会社 | 下着 | 3,200dozen | 綿下着 | 1908年上半期 | 2,560.00 | 6,000.00 | 405.00 | 0.00 | 15.00 | 105.00 | 4,640.00 | 50.00 | 13.00 | 13,788.00 | 綿糸 | 330 | 2,560.00 | 0.00 | 0.00 | 2,560.00 | 30 | 0 | 0 | 30 | 12 | 7 | 84 |
| 33 | 竜野 | 東洋音楽楽器製造会社 | バイオリン、オルガン | バイオリン2,400<br>オルガン3,600 | 学校用のオルガン、安価なバイオリン | 1907年 | 14,500.00 | 45,200.00 | 1,200.00 | 600.00 | 250.00 | 396.00 | 6,025.00 | 150.00 | 175.00 | 68,496.00 | 金属線、毛織物、ニス、真鋳、木 | 336 | 10,250.00 | 3,100.00 | 1,150.00 | 14,500.00 | 90 | 30 | 25 | 145 | 10 | 7 | 70 |
| 34 | 大阪 | 大阪ワイン製造会社 | ワイン（赤ワイン） | 4,000gallons | ワイン | 1907年 | 350.00 | 2,800.00 | 300.00 | 100.00 | 50.00 | 1,000.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 4,600.00 | 米国から輸入した原料 | 350 | 200.00 | 150.00 | 0.00 | 350.00 | 2 | 3 | 0 | 5 | 10 | 7 | 70 |

注：工場・会社名は、原文ではアルファベットで示されているが、一部漢字表示にした。但し、当時の工場・会社名とは照合していない。

表A：大阪港への輸入品

| 品物 | 1907年　$ | 1906年　$ |
|---|---|---|
| アンチモン | 24,645 | 1,241 |
| 豆類 | 554,376 | 662,479 |
| 自転車と部品 | 65,289 | 36,347 |
| 動物の骨 | 78,545 | 70,336 |
| 銅、鋳型、厚板 | 27,314 | 50,130 |
| 綿花（実綿） | 34,177 | 60,105 |
| 綿花（繰綿） | 4,309,643 | 896,443 |
| 綿繻子 | 59,619 | 25,135 |
| 綿ベルベット | 37,189 | 4,984 |
| 磁器 | 55,205 | 32,939 |
| 麻、中国草 | 436,994 | 416,678 |
| 鹿・雄牛・水牛の皮 | 453,628 | 466,192 |
| 鋼鉄板、塊、鋳型 | 87,663 | 29,696 |
| ラッカー | 166,943 | 115,517 |
| 機械と部品 | 112,095 | 168,485 |
| 固形油 | 161,089 | 67,523 |
| 紙 | 262,477 | 181,031 |
| 米・籾付米 | 2,801,286 | 743,739 |
| 綿の種 | 97,349 | 49,654 |
| シャツや敷布地 | 67,947 | 46,040 |
| 鉄棒、鉄竿 | 46,203 | 81,741 |
| 麦わら製品 | 49,779 | 54,585 |
| 粗糖 | 1,619,530 | 2,851,809 |
| 精糖 | 418,757 | 424,850 |
| 材木 | 73,435 | 60,562 |
| 絹織物 | 655,976 | 687,196 |
| 雨傘生地 | 37,189 | 153,637 |
| ベルベット、フラシ天 | 28,809 | 38,107 |
| 蒸気船 | 56,772 | 56,769 |
| 植物蠟 | 133,891 | 145,981 |
| 羊毛 | 867,950 | 331,662 |
| 羊毛糸 | 81,299 | 115,863 |
| 羊毛生地、サージ | 59,534 | 120,251 |
| 羊毛生地、綿混サージ | 57,167 | 168,992 |
| その他 | 2,854,856 | 2,764,777 |
| 総計 | 16,934,620 | 12,181,476 |
| 再輸入 | 212,337 | 208,124 |
| 総計 | 17,146,957 | 12,389,600 |

表B：大阪港からの輸出品

| 品物 | 1907年　$ | 1906年　$ |
|---|---|---|
| カバン、靴下 | 87,135 | 212,360 |
| ビール | 425,000 | 456,101 |
| ブラシ | 34,357 | 68,163 |
| ボタン | 130,266 | 127,256 |
| 巻煙草 | 41,397 | 367,800 |
| 掛け時計、置時計 | 70,063 | 107,745 |
| 欧州風の衣類 | 174,914 | 232,528 |
| 石炭 | 41,627 | 46,716 |
| 缶・瓶詰食料品 | 155,969 | 193,340 |
| 銅 | 2,685,806 | 718,908 |
| 網、組みひも | 30,200 | 41,332 |
| 綿毛布 | 75,327 | 313,947 |
| 綿ドリル(強い綾織りの綿布) | 669,853 | 405,945 |
| 綿フランネル | 79,038 | 195,343 |
| 綿　gassed | 22,900 | 38,046 |
| 綿ワイシャツ、敷布 | 2,264,768 | 2,616,539 |
| 綿シャツ（綾織り） | 62,415 | 61,645 |
| 綿布 | 377,316 | 409,249 |
| 綿織物、白 | 885,108 | 648,237 |
| 綿タオル | 367,986 | 522,798 |
| 綿下着、ズボン下 | 298,479 | 308,419 |
| 綿小塊 | 190,337 | 158,555 |
| 綿糸 | 4,446,902 | 2,950,767 |
| 綿繰り機械と部品 | 142,485 | 83,390 |
| 干物・塩漬魚 | 25,692 | 22,393 |
| ガラス | 516,551 | 645,365 |
| 手袋 | 49,620 | 48,603 |
| 帽子 | 94,994 | 226,518 |
| 鉄鍋、米釜 | 108,082 | 97,763 |
| 鉄製品 | 408,165 | 484,645 |
| 漆器 | 82,928 | 74,368 |
| ランプと部品 | 158,672 | 177,149 |
| 皮革 | 55,846 | 96,470 |
| 機械と部品 | 594,236 | 297,072 |
| マッチ | 1,115,469 | 1,212,932 |
| 油脂、蠟 | 153,089 | 65,995 |
| 和紙 | 298,047 | 541,205 |
| 種種雑多の紙 | 345,634 | 428,990 |
| 機械生産された紙 | 38,757 | 37,608 |
| 磁器 | 391,062 | 564,579 |
| 薬 | 145,276 | 161,037 |
| 麦わら製のロープ・鞄・マット | 439,599 | 349,291 |
| 清酒 | 950,602 | 867,037 |
| 海藻 | 128,748 | 140,257 |
| 履物 | 231,251 | 293,281 |
| 綿サテン | 286,665 | 354,174 |
| 綿混紡の絹生地 | 147,806 | 162,128 |
| 石鹸、洗面用品 | 243,194 | 332,363 |
| 靴下、ストッキング | 94,994 | 156,836 |
| 醤油 | 108,485 | 107,270 |
| 精糖 | 337,345 | 1,376,728 |
| 茶 | 125,036 | 131,075 |
| 材木 | 594,236 | 485,368 |
| トイレ用品 | 178,310 | 87,759 |
| 欧州風雨傘 | 395,726 | 406,172 |
| 野菜、果物、ナッツ | 287,113 | 240,238 |
| その他 | 5,546,116 | 6,054,299 |
| 総計 | **28,618,474 | **29,231,604 |
| 再輸出 | 640,122 | 603,689 |
| 総計 | **29,258,596 | **29,836,295 |

表C：紡績工場の実態　1907年

| | 会社名 | 住所 | 資本金 $ | 予備資金 $ | 紡錘数 | 織機数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 綿紡績工場 | アマガサキ | 兵庫県　尼崎 | 373,500 | 771,900 | 45,596 | 記載なし |
| | エヒメ | 大阪 | 124,500 | 3,486 | 5,760 | 記載なし |
| | フクシマ | 大阪 | 251,490 | 129,480 | 36,308 | 記載なし |
| | ハリマ | 兵庫県　姫路 | 217,875 | 20,274 | 10,368 | 記載なし |
| | カネガフチ | 神戸 | 3,911,417 | 2,521,234 | 218,080 | 300 |
| | カサオカ | 備中　笠岡 | 199,200 | 13,944 | 10,848 | 記載なし |
| | Kensi | 京都 | 2,869,725 | 270,464 | 54,552 | 638 |
| | キシワダ | 和泉　岸和田 | 375,488 | 414,336 | 65,352 | 記載なし |
| | クラシキ | 備中　倉敷 | 199,200 | 74,700 | 29,584 | 記載なし |
| | キョウト Menneru | 京都 | 1,220,100 | 236,820 | 13,656 | 505 |
| | マツヤマ | 伊予　松山 | 124,500 | 69,969 | 6,528 | 記載なし |
| | ミエ | 伊勢　四日市 | 2,927,082 | 1,469,185 | 219,144 | 2,711 |
| | ニッポン | 大阪 | 1,369,500 | 433,260 | 100,852 | 記載なし |
| | オオサカ | 大阪 | 1,867,500 | 617,520 | 117,456 | 2,928 |
| | オオサカ　ゴドウ | 大阪 | 1,195,200 | 371,010 | 99,752 | 記載なし |
| | サカイ | 和泉　堺 | 224,100 | 142,428 | 23,803 | 記載なし |
| | サヌキ | 讃岐　坂出 | 149,400 | 19,024 | 10,728 | 記載なし |
| | セッツ | 大阪 | 864,030 | 1,220,100 | 125,852 | 記載なし |
| | テイコク | 京都 | 747,000 | 記載なし | 10,260 | 記載なし |
| | ワカヤマ | 和歌山県 | 448,200 | 122,010 | 18,504 | 記載なし |
| | ワカヤマ織布 | 和歌山県 | 261,450 | 87,648 | 8,512 | 336 |
| 織物工場 | ナイガイ紡績＆織機工場 | 大阪 | 373,500 | 記載なし | 29,152 | 899 |
| | テンマ織物 | 大阪 | 311,250 | 74,949 | 4,480 | 446 |
| | その他 | | 1,077,921 | 記載なし | 88,596 | 記載なし |
| 総計 | | | 21,684,128 | 9,083,741 | **1,353,008 | 8,763 |

注：会社名は、アルファベットで示されており、カタカナに変転したが、それが困難なものは、アルファベットでそのまま表示した。

表D：主要な会社の配当率の変化

単位　%

| 会社名 | 1903年 | 1904年 | 1905年 | 1906年 | 1907年 |
|---|---|---|---|---|---|
| アマガサキ | 20 | 20 | 35 | 45 | 50 |
| フクシマ | 記載なし | 記載なし | 10 | 22 | 30 |
| ゴド ＊ | 10 | 11 | 20 | 25 | 30 |
| カネガフチ | 7.5 | 7 | 16 | 18 | 22 |
| Kenshi ＊ | 10 | 1.5 | 5 | 20 | 7 |
| キシワダ | 18 | 18 | 30 | 16.5 | 22 |
| ミエ | 12 | 13.2 | 30.8 | 30.4 | 25.4 |
| ニッポン | 12 | 10 | 13.5 | 16 | 18 |
| オオサカ | 2.5 | 7 | 2.5 | 22.5 | 20 |
| セッツ | 16 | 17 | 38 | 45 | 50 |

注：ゴドは、表Cのオオサカゴドウ、Kenshiは表CのKensiと思われる。

表Ｅ：大阪港外国貿易船舶出入　1907 年

| 船籍 | 種類 | 入港 | | 出港 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 隻数 | 登簿噸数 | 隻数 | 登簿噸数 |
| 英国 | 汽船 | 7 | 14,361 | 7 | 15,494 |
| 中国 | 汽船 | 3 | 3,026 | 3 | 3,026 |
| 日本 | 汽船 | 562 | 462,043 | 595 | 469,750 |
| 朝鮮 | 汽船 | 2 | 922 | 2 | 922 |
| ノルウェー | 汽船 | 17 | 11,323 | 12 | 10,758 |
| ロシア | 汽船 | 1 | 825 | 1 | 825 |
| アメリカ合衆国 | 汽船 | 30 | 16,744 | 31 | 17,297 |
| 日本 | 帆船 | 3 | 36 | 記載なし | 記載なし |
| アメリカ合衆国 | 帆船 | 1 | 743 | 1 | 743 |
| 総計 | | 626 | 510,023 | 652 | 518,815 |

表Ｆ：製紙工場の実態　1907 年

| 会社名 | 住所 | 資本金　$ | 動力の種類 |
|---|---|---|---|
| アキタ | 兵庫県 | 17,430 | 蒸気 |
| チュウオウ | 岐阜県 | 249,000 | 蒸気 |
| エチゼン | 福井県 | 24,900 | 蒸気 |
| フキアイ | 兵庫県 | 14,940 | 蒸気 |
| ゲイボウ | 広島県 | 49,800 | 蒸気 |
| ホソイ | 福井県 | 14,940 | 蒸気 |
| イズミ | 大阪府 | 49,800 | 蒸気 |
| イノ | 高知県 | 6,972 | 蒸気 |
| イヨ | 愛媛県 | 6,972 | 蒸気 |
| カイリョウ | 愛知県 | 12,450 | 蒸気 |
| カト | 福井県 | 9,960 | 蒸気 |
| ミマサカ | 岡山県 | 9,600 | 蒸気 |
| ミノ | 岐阜県 | 44,820 | 蒸気 |
| ミツビシ | 兵庫県 | 249,000 | 蒸気 |
| ナカノシマ | 大阪府 | 149,400 | 蒸気 |
| ニシナリ | 大阪府 | 174,300 | 蒸気 |
| ニシノ | 福井県 | 49,800 | 蒸気 |
| オカヤマ | 岡山県 | 498,000 | 蒸気 |
| オオモト | 兵庫県 | 24,900 | 蒸気 |
| オオサカ | 兵庫県 | 249,000 | 蒸気 |
| シント | 三重県 | 24,900 | 蒸気 |
| シンヨウシャ | 福井県 | 9,960 | 蒸気 |
| タカノ | 福井県 | 12,450 | 蒸気 |
| タキ | 兵庫県 | 9,960 | 蒸気 |
| トーヨー | 大阪府 | 174,300 | 蒸気 |
| ウメズ | 京都府 | 149,400 | 蒸気と水力 |
| ヨッカイチ | 三重県 | 184,260 | 蒸気と水力 |
| 総計 | | **2,581,632 | |

表Ｇ：業種別の賃金比較　　単位ドル

| 項目 | 職種 | 1895年 | 1906年 | 1908年 |
|---|---|---|---|---|
| 項目なし | パン製造業 | 0.12 | 0.22 | 0.27 |
| 醸造所 | 杜氏 | 0.105 | 0.197 | 0.27 |
| | 醤油職人 | 0.088 | 0.12 | 0.19 |
| | 男性労働者 | 0.03 | 0.055 | 0.1 |
| | 女性労働者 | 0.015 | 0.034 | 0.075 |
| 職人 | 煉瓦積み | 0.38 | 0.41 | 0.45 |
| | 煉瓦作り | 0.19 | 0.265 | 0.32 |
| | 大工 | 0.155 | 0.325 | 0.5 |
| | 肉体労働 | 0.112 | 0.21 | 0.35 |
| | 麻マット | 0.15 | 0.28 | 0.3 |
| | 壁紙貼り | 0.142 | 0.29 | 0.35 |
| | 塗装 | 0.75 | 0.3 | 0.45 |
| | 漆喰 | 0.157 | 0.325 | 0.4 |
| | 配管 | 0.14 | 0.27 | 0.35 |
| | 陶工 | 0.158 | 0.27 | 0.32 |
| | 石工 | 0.1795 | 0.365 | 0.425 |
| | 巻煙草(男性) | 0.125 | 0.27 | 0.39 |
| | 巻煙草(女性) | 0.06 | 0.12 | 0.15 |
| 衣類製造 | お針子・手(女性) | 0.12 | 0.19 | 0.25 |
| | お針子・機械(女性) | 0.15 | 0.2 | 0.275 |
| | 仕立て(日本染料) | 0.126 | 0.25 | 0.35 |
| | 仕立て(欧州染料) | 0.192 | 0.34 | 0.45 |
| 項目なし | 坑夫 | 0.15 | 0.23 | 0.41 |
| | 半熟練工 | 0.12 | 0.19 | 0.28 |
| | 植字工 | 0.169 | 0.22 | 0.45 |
| | 菓子職人 | 0.163 | 0.165 | 0.23 |
| | 農民(男性) | 0.03 | 0.15 | 0.19 |
| | 農民(女性) | 0.02 | 0.075 | 0.105 |
| | 漁師 | 0.166 | 0.2 | 0.25 |
| ガラス | フリント壜 | 0.21 | 0.45 | 0.51 |
| | 緑壜 | 0.21 | 0.45 | 0.51 |
| | 窓ガラス | 0.21 | 0.45 | 0.51 |
| 鉄 | 蹄鉄工 | 0.14 | 0.285 | 0.285 |
| | 製鋼工 | 0.12 | 0.3 | 0.325 |
| | 製鋼工(加熱) | 0.12 | 0.3 | 0.325 |
| | 鉄棒 | 0.12 | 0.3 | 0.325 |
| | 鉄横木 | 0.12 | 0.3 | 0.325 |
| | 鉄管 | 0.24 | 0.47 | 0.575 |
| 項目なし | ボイラー工 | 0.15 | 0.35 | 0.4 |
| | 宝石職人 | 0.148 | 0.265 | 0.3 |
| | 製陶工 | 0.12 | 0.25 | 0.3 |
| | 漆職人 | 0.139 | 0.275 | 0.31 |
| | 日雇い職人 | 0.112 | 0.21 | 0.3 |
| | 皮・馬具職人 | 0.149 | 0.315 | 0.35 |
| 製材関係 | 伐採職人 | 0.15 | 0.4 | 0.425 |
| | 材木工場(男性) | 0.153 | 0.32 | 0.3 |
| | 材木工場(女性) | 0.08 | 0.15 | 0.175 |
| 機械関係 | 鍛冶屋 | 0.14 | 0.285 | 0.285 |
| | 鉄型職人 | 0.154 | 0.275 | 0.285 |
| | 機械工 | 0.45 | 0.85 | 0.975 |
| 製紙関係 | 撹拌処理(男性) | 0.08 | 0.18 | 0.225 |
| | 撹拌処理(女性) | 0.02 | 0.08 | 0.1 |
| | 製紙機械工 | 0.1 | 0.25 | 0.3 |
| 項目なし | 米粉工 | 0.14 | 0.16 | 0.2 |
| | 皮なめし工 | 0.1 | 0.25 | 0.27 |
| | 木工職人 | 0.1 | 0.26 | 0.3 |
| 靴 | 皮入れ | 0.157 | 0.29 | 0.45 |
| | 木靴 | 0.118 | 0.225 | 0.25 |
| | 甲皮裁断師 | 0.17 | 0.35 | 0.5 |
| 養蚕業 | 養蚕(男性) | 0.08 | 0.18 | 0.2 |
| | 養蚕(女性) | 0.02 | 0.08 | 0.125 |
| 繊維業 | 綿紡績工(男性) | 0.1 | 0.3 | 0.34 |
| | 綿紡績工(女性) | 0.06 | 0.11 | 0.215 |
| | 綿紡績工(子ども) | | | 0.06 |
| | 絹紡績工(男性) | 0.1 | 0.3 | 0.35 |
| | 絹紡績工(女性) | 0.067 | 0.115 | 0.25 |
| | 羊毛紡績工(男性) | 0.04 | 0.08 | 0.175 |
| | 羊毛紡績工(女性) | 0.02 | 0.06 | 0.115 |
| | 綿職工(男性) | 0.04 | 0.08 | 0.175 |
| | 綿職工(女性) | 0.02 | 0.06 | 0.115 |
| | 綿繰り工 | 0.113 | 0.22 | 0.25 |
| | 絹職工(男性) | 0.091 | 0.21 | 0.35 |
| | 絹職工(女性) | 0.06 | 0.15 | 0.25 |
| | 羊毛職工(男性) | 0.04 | 0.08 | 0.175 |
| | 羊毛職工(女性) | 0.02 | 0.06 | 0.115 |
| | 羊毛機械監視員 | 0.11 | 0.3 | 0.35 |

表H：生活・産業に必要な品物の価格の日米比較　1908 年

| 品物 | 品物の詳細 | 日本 | | アメリカ | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 単位 | 円 | 単位 | ドル |
| 穀物 | 米 | 石 | 15.50 | 4.9629Bu. | 7.75 |
| | 大麦 | 斗 | 1.65 | 1.09pecks | 0.875 |
| | 小麦 | 斗 | 0.97 | 1.09pecks | 0.485 |
| 小麦粉 | 機械による日本製 | 6貫 | 2.65 | 49.69Pd. | 1.325 |
| | 水車による日本製 | 6貫 | 2.40 | 49.69Pd. | 1.20 |
| | アメリカ金赤印 | 6貫 | 2.70 | 49.69Pd. | 1.35 |
| 塩漬け | サケ | 貫 | 1.35 | 8.28Pd. | 0.675 |
| | トラウト | 貫 | 2.70 | 8.28Pd. | 1.35 |
| | ニシン | 貫 | 1.00 | 8.28Pd. | 0.50 |
| 鳥肉 | 鶏 | 貫 | 2.50 | 8.28Pd. | 1.25 |
| | アヒル | 貫 | 2.80 | 8.28Pd. | 1.40 |
| | 家畜 | 10貫 | 23.00 | 82.8Pd. | 11.50 |
| たまご | | 10貫 | 12.40 | 82.8Pd. | 6.20 |
| 塩 | 4級品　塩 | 100斤 | 3.10 | 132.5Pd. | 1.55 |
| 醤油 | 特上　醤油 | 樽 | 0.57 | Cask | 0.285 |
| 砂糖 | 精糖 | 100斤 | 17.14 | 132.5Pds. | 8.57 |
| 蒸留酒と麦芽 | ワイン | 1ダース | 9.00 | 1dozen | 4.50 |
| | ビール | 4ダース | 10.00 | 4dozen | 5.00 |
| | ブランデー | 1ダース | 12.50 | 1dozen | 6.25 |
| | ウイスキー | 1ダース | 15.00 | 1dozen | 7.50 |
| ガラス皿 | 普通のガラス皿 | 1箱 | 5.90 | 1Box | 2.95 |
| | 装飾的ガラス皿 | 1箱 | 80.00 | 1Box | 40.00 |
| 金属 | 銅厚板 | 100斤 | 46.80 | 132.5Pd. | 23.40 |
| | 亜鉛 | 100斤 | 18.30 | 132.5Pd. | 9.15 |
| | 鉛 | 100斤 | 12.50 | 132.5Pd. | 6.25 |
| | スズ | 100斤 | 118.00 | 132.5Pd. | 59.00 |
| 釘 | 2インチ釘 | 100斤 | 7.80 | 132.5Pd. | 3.90 |
| マット | 2級品 | 10シート | 3.50～7.00 | 10sheets | 1.75～3.50 |
| 紙 | 和紙 | 1束 | 17.00～22.20 | 1Bundle | 8.50～11.10 |
| | 外国紙 | 1ポンド | 0.07～0.155 | 1Pound | 0.035～0.0775 |
| 肥料 | 地元肥料 | 10箱 | 0.65～2.60 | 10Boxes | 0.33～1.30 |
| 綿 | 平均的なアメリカ産 | 100斤 | 38.00 | 132.5Pd. | 19.00 |
| | インド、アグラ産 | 100斤 | 25.00 | 132.5Pd. | 12.50 |
| | 中国産（1級品） | 100斤 | 39.35 | 132.5Pd. | 14.77 |
| 糸 | 綿糸 | 梱 | 110.00～140.00 | Bale | 55.00～70.00 |
| | 絹糸 | 匁 | 13.20 | 2.12Dr. | 6.60 |
| | 羊毛糸 | ポンド | 1.52 | Pound | 0.76 |
| 麻、亜麻 | | 貫 | 0.82 | 8.28Pounds | 0.41 |
| 絹原料 | | 2小梱 | 8.95～45.00 | 2small bales | 4.47～22.50 |
| 皮革 | | 100斤 | 85.00～228.00 | 132.5pd. | 42.50～114.00 |
| 灯油 | 日本製（1級品） | 1箱 | 3.14 | 1Box | 1.57 |
| | アメリカ製（1級品） | 1箱 | 3.97 | 1Box | 1.985 |
| | ロシア製（1級品） | 1箱 | 3.32 | 1Box | 1.66 |
| 石炭 | 夕張産　塵 | 10000斤 | 56.00 | 13251pd. | 28.00 |
| | 幌内産　塊 | 10000斤 | 69.00 | 13251pd. | 34.50 |
| セメントと石灰 | セメント（1級品） | 380pd. | 5.20 | 380pounds | 2.60 |
| | 生石灰 | 貫目 | 32.00 | 8.28Pd. | 16.00 |
| レンガ | | 10000個 | 150.00 | 10000p | 75.00 |
| 材木 | 日本産 | 記載なし | 17.00 | 記載なし | 8.50 |
| 石 | 御影石 | 1.00Ftの立方体10個分 | 1.00 | 10pieces of 1 cubic ft | 0.50 |
| 羊毛原料 | | ヤード | 1.25～6.40 | yard | 0.625～3.20 |
| 藍と材料 | | 100lbs. | 210.00 | 100lbs. | 105.00 |
| 茶 | 2級品 | 1貫 | 1.55～2.55 | 8.28lbs. | 0.775～1.275 |

表Ｉ：地元小売業者販売の生活必需品の価格　1908 年

| 品物 | 価格　$ | 単位 |
|---|---|---|
| 角砂糖 | 0.115 | lb. |
| サラダ油 | 0.375 | bottle |
| サケの缶詰 | 0.175 | tin |
| サーディンの缶詰 | 0.20 | tin |
| セイロン茶 | 0.425 | lb. |
| 丁字 | 0.075 | oz. |
| ベーキングパウダー | 0.76 | lb. |
| カレーパウダー | 0.25 | bottle |
| ビネガー | 0.20 | bottle |
| 無糖チョコレート | 0.35 | lb. |
| 小さなハム | 3.375 | 記載なし |
| 茶色のつや出し剤 | 0.15 | bottle |
| ココア | 0.30 | tin |
| マスタード | 0.325 | tin |
| コンスターチ | 0.16 | tin |
| 砂糖 | 0.10 | lb. |
| サゴ（サゴヤシからの澱粉） | 0.1 | lb. |
| ベーコン | 0.30 | lb. |
| チーズ | 0.30 | lb. |
| パン | 0.04 | lb. |
| ゼリーパウダー | 0.15 | P'kg. |
| 靴墨 | 0.16 | bottle |
| アーモンド | 0.025 | oz. |
| ビーフステーキ | 0.15 | lb. |
| スウェット（石鹸・ロウソクの原料） | 0.14 | lb. |
| スープ用の肉 | 0.10 | lb. |
| 羊の切り身 | 0.075 | lb. |
| 羊の足 | 1.50 | lb. |
| 子牛の肉 | 1.14 | 5-3/4lb. |
| 煮た牛肉 | 0.175 | lb. |
| シチュー用牛肉 | 0.16 | lb. |
| サーロイン | 0.595 | 3-1/2lb. |
| 腎臓 | 0.06 | lb. |
| 焼肉用たれ | 0.15 | lb. |
| 塩漬け肉 | 0.15 | lb. |
| スープ用牛の尾の肉 | 0.07 | lb. |
| 夏用スーツ | 8.00～14.00 | suit |
| 冬用スーツ | 14.00～22.00 | suit |
| 綿シャツ | 1.00～2.00 | each |
| フランネルのシャツ | 1.00～2.00 | each |
| ネクタイ | 0.35～1.00 | each |
| 帽子 | 1.00～6.00 | each |
| サスペンダー | 0.50 | each |
| ボタン | 0.03～1.25 | doz. |
| 靴下 | 0.50～0.85 | pair |
| ベスト（下着） | 0.75～3.00 | each |
| カラー | 0.25 | each |
| 長靴 | 2.00～5.00 | pair |
| 靴 | 1.50～3.50 | pair |
| ハンカチーフ | 3.25～3.75 | doz. |
| ストッキング | 0.75～2.25 | pair |

# SUMMARY

**Report concerning the American Consulate in Kobe in 1908**

Kinuko Fujimori

From September 2 until September 13 2010, I visited the National Archives and Records Administration (NARA) in Washington D.C. My purpose was to research Kobe's history and development from American documents. Therefore I read the Consulary Reports that are filed in the National Archives, written by the American consulate in Kobe.

The "Consulate Special Report on Industrial Conditions 12/1907" that I will refer to in this paper, is one part of a document titled the "Department of State. U.S. Consulate, Kobe, Japan. (1867-1961)" and is kept at the National Archives and Records Administration (Archives Ⅱ).

In the American Consulate Reports, there are Annual, Monthly, Special Consular Report, Daily, Weekly, Special Agent Series, and Trade Promotion Series. This paper focuses on the analysis of the Special Consular Report. "Consulate Special Report on Industrial Conditions 12/1907" has some blurry parts and was written on a typewriter, and reproduced on 126 pages of carbon paper. Of these 126 pages, 68 pages (54%) are a report of a research conducted on 15 topics involving a total of 34 companies of various industrial types. 18 pages (14%) is of research involving wages, labor time, holidays et cetera.

In 1903 the new Department of Commerce and Labor (C&L) assumed responsibility for publishing the consular reports. C&L soon had its own group of special agents, whose members sent back to Washington a large number of reports on general trade conditions. From the years 1910 until the twenties special agents increased steadily.

The writer of this report, John H. Snodgrass was born in the year 1870 on March 15, in the town of Williamstown, Ohio. He went as American consul to Pretoria (1905-1908) and Kobe (1908-1909), and as American consul general to Moscow (1909-1917), but after this his further lifecourse becomes unclear.